



5
1981
4



近杖集抄

さ

さうかき あらふ西字也

あふ事

さうあふ人と

なる是も同

さゆらん 海あふ小いん

也其来と書

されさうぬ 指垣と云

さくめ雪 こゆふあふ

雪有利

さゆらぬ 煙と云ふ

さしめ なみあま

さしめま 美也いんたり

をりや

さみとり月 正月れり也

さむえ月 三月と云り

さくら月 五月のりり

さねさ月 八月成云り

ゆめ乃風 積雪と吹散と

とりの世

さくひこめ 雪と云り

さあろ色 うく衣乃事

交衣取和天皇

よるまら

有利

さるんさ 華と云り

さえこと うれひとたり

さよす人 ぬきて祓未

うらみ人

ゆらと鳥 百舌と書

さくめと 松語也又くし

きやふ云り

さえうと 学回利根成

事

さけうせと 不達と云り

正同事也

さん 美友也奈賀の

中央十カケタ文集
年のかけいりし仙居

子成云

さたまく徳 天子あま乃

うんよ云る

也ありの貞道

年と云によめ

里又十年入

を記しつと云

なり

さのもれ さやう乃物と

云詞あり

さかひめ 妻と書祿也

さ波もふ 妻祿示れうこ

ひ物

さけり 世は多慈乃事

なり

さひり 西風正山記辨

なり

さくらり 指合あるり人

さぬけり さくらりとなを

事あり

さそふ りよかすん也

さけき 志願さく徳也

又くしあなる

くしあなる

さ孫めり たりぬる事也

さとり ういんひすえ

天
子
の
御
座
に
坐
す
御
座
に
坐
す

乃
成
云

天子あまの

うんよ云る

也ありの貞也

年と云によめ

里又十年入

を元と云

なり

このもれ さやう乃物と

云詞あり

さかひめ 妻と書れ也

さかひめ 妻と書れ也

ひ物に

さかひ 世は多蓮乃奉

なり

さかひ 西風正山記辨

なり

さくら 指合あるり

さくら 事ある

さくら 事ある

さくら 事ある

さくら 事ある

さくら 事ある

さくら 事ある

さくら 事ある

さくら 事ある

さくゆく さく人約有利

さくを さくやうあをえ

さくうお くまれり也

さひえ ねくさくまらる

さくうら 江行を

さやうは さたりぬめ也

とた宅同の

さりうり ありやう也

さくは たくちやま

さくは たくちやま

さくは たくちやま

さくは たくちやま

さくをひ ちそあき等の

さくを 東一有利

さくを 美人の事也

さくを 流人并神あり

さくを 不めくち調心

さくを ちいさく石也

さくを ち少石と書え

さくを ち也流石も也

さくを ち海りふちり

さくを ち波あり

さくを ちやくちちり

さくを ち源氏ありあり

さくを ちさあち想た

文活り
みと云るなり也
妻多の啼子之

海去あとのり
初春よ萌生と

秋原死又祓乃
名なり

三枝乃花折て
酒懸あや残り

さうとあま
さしころ人
うとそ成

人なり
うくみみ
うよ里に

世やうてと云
うとる利

うとる利
うとる利

うとる利
うとる利

うとる利
うとる利

うとる利
うとる利

うとる利
うとる利

うとる利
うとる利

うとる利
うとる利

文法

うん草

さつとさ祭

小と云るなり也
 妻多の亭子之
 海去少とりの
 初春よ萌生と
 秋原死又祓乃
 名有り
 三校乃花朽て
 酒懸あや残り
 さつとさ祭
 さしつらん
 人なり
 うくみふ
 也やうてと云

うん草

さつとさ祭

さしつらん

うくみふ

人なり

也やうてと云

うん草

さつとさ祭

小と云るなり也
 妻多の亭子之
 海去少とりの
 初春よ萌生と
 秋原死又祓乃
 名有り
 三校乃花朽て
 酒懸あや残り
 さつとさ祭
 さしつらん
 人なり
 うくみふ
 也やうてと云

かこや候と
細と許す
遊仙宮の
祭

さたくと さたあなるし
ゆやうなる ちんきさく
あもあを云也
さけあまを云
さうとも云

さうり成髪 うみのうす

き新々

さうとも ちんきさく

さやよとぬ さやうおを

尺ぬり科

さうくくく ちんきさく

寤寐 田口
仙宮

也さういーあん
あまを

さた乃とさ さあとも

なりんあを

らふ事也

さよふ さ乃とあを

襦のちそあい 向さあを

上臈女房乃き

於袖之襦色れ

るり也

さう乃とさ 持扇のあ方

三物と厚様

はくむあり

あうとさ よき中懸成て

又能成と云

言

言

さたくと さたあなるこ
ゆやうなる ちさきこ

あとも云也
さけあまこ

さうく成髪 うみのうす
さうくも

えやきこ子連
さやよとぬ さやうおを

えぬり科
さうくくく

さうくくく
也さうい

あまも
さた乃と

なりんあを
らふ事也

さよふ
さ乃と

櫛のちそかい
上臈女房乃き

おゆの櫛色れ
る也

さう乃と
櫛羽のあ方
三物と

ゆき中
ゆき中成て
又能成と云

ゆき中
又能成と云

さくし里 唐小抄とあり

ふ人ハ耳々

甲と帯又付也

さくら 古と云字也辞

古なり

さくしわ 六月并乃本哉

さくしゆ身也

さくしと葉 ちのきれり

也但蓬より似

さくし系なり

さくし 所より也さハ

まん同車一之

さくしなく取海 ちのき織ひ

乃るり

さくし 一向小とあり

ちのき利

さくし葉 持本なり

さくしあ ちのきそあ也云

ちのきなり

さくし戸 櫛の本より他

戸あり

さくしうと ちのきいり也

里ひりりちのき 田舎ぬふた

ちのき利

さくし人 風俗乃人也

さくしぬ別 不吉別死わり

まあり

さへくひ さんきうる也

さえの祓 道祖祓へ

さりの志 笠乃事也

さやく そよくあを又

さうくくと志

さう祓へ霜風

さほり

さう 冬さきまは祓

さおらく たりぬる事也

さうなる さふりうと云

詞也さうや云

るみあをさ

さうりり 穢と為取へ

さうりこ 男二人迄多れ

さうひひな 女自容せし女

世搦見と書

さうめれ事 老女へ又徳

母とも云なり

さうさめい 又さうさめい

毎周と云

さうれかへ 只さうさめいのみ

也守ぬ乃はと

あり

さうー 也賢

事平あ之用

さへふ 客儀乃よきし

さへふ 志とやうふ

経ぬ所也

さへふ まのらと那り

さへふ 乃ぬるくさハ

助字なり

さへふ あまふてうる

詞あり

さへふ 唐亦ハぬる

さへふ とたを

さへふ 乃驚也とらぬ

さへふ 雲云ふり

本とら具とら

さへふ 鳥とらとも云

さへふ 色赤紅義とら

さへふ 依と云也搦麻

也さくく喉河

かあさまける

いふあを

さへふ 七夕有利

さへふ 伊勢乃内ふれ

は事一也

さへふ 揺くの文

はくく乃ええ

水貯あてハさ

くく糸のまを

阿波姫

阿波姫
友子於乃妻也

松浦鏡の文之

うーとへく

うさこと也態

さうとけハ

あちこちさ

とくあゝ海也

あけく

合点行也

さくら

さゆさけさ

きー回奇

さひらるる

おこさひて

任ちあり

藤乃ととくむ

酒のり也

さばの蜜

あかふ事一

さうらへ男

月の君なり

きたりうかて

田代海之

うかてきみそ

乃名あり

さ

石乃君也沙石

乃名

さふし木

九百七十又夫

乃外木之

さひのく海

播原那也

又月の玉

くまむれ子也

ささと里

雑とあ事一

さこし家

さくか利

さふり

けさうさ

らむか 人のうかせ

さうあき まいりあり

さえる打袂 くる乃西と

くお月ふん也

うらもあやき 世俗よさく

らげまぬふと

云るりあ

さうぬ神あり

さうひまもと也

さへる芥の 王路ふ飛へ

えふ山 橋津圃也

さうたよ めいと云

さうさくす也

さうふ 袂樂のふ也

さふあさゆ 藤分物あり

換ふおえぬ さへあは

さと甲の母 めんふ也

さはくり さうりあも也

さあの方 舟さす人丹子

さうかろひ 蓋さよあり

さうり ちりさふ事

さうの圃 あふみのあれ

さうり ぬきり

さうり ぬきり

さうり ぬきり

さく竹

抱調之竹竹ハ
杉本きんよ用

竹乃のこれ宛 菘也さの

かごとりりを

いふなり

さ井

莫也俊形云又

因茶とて山田

乃さわをとる

へ幾すし宅也

又月の鏡

百練鏡と云と

又月又月午時

江南舟中にて

わらふあり

さくき草

芦竹り

さく藤ときさきりく正の

名打り

ゆめり粉

菘すしひ孫か

茅竹利

さすさか

男と云熊野路

乃調よいふ也

さくゆい

弓ハ其具の中

みさくと酒か

まは云く

りよま尻人

林赤男よ成

と云子夜敷家

人とあり

ささやきれ格 小圃之
さち さいんひ也幸
乃字也結みへ

き

ささきり 賀茂の流所祭
あり霜月也

されんて 田舎れんて之
きなるいり 黄泉真途也

きぬひ馬 いとびり語之
あかあつ 秋乃定あま

きりくぶ 二月の若利
きぬさうあ 二月家交番

ささきり 那由

きよふらあそ 狐よらとせ

きくら漕舟 煮くく舟之

き原之海 煮くく舟之

きよら 清あま

きひじ とうつらき

きぬたら 衣うつ也秋
きぬく 入りのあき

きくしうて さいえそひり
きくつらあ 煮くく舟之

稚
い
と
き
け
き
し

又向こぬ也

さうやきれ格 水圃之
さち さいんひ也幸
乃字也結り

き

きうさうり 賀茂の流所祭
あり霜月也

きれんそ 田舎れんてん
きなるい言 黄泉真途也

きあひ馬 ひとびり語之
あかあつ 秋乃定あま

きしうぶ 二月の若利
きぬさうぶ 二月衣更番

きふらあそて 狐よら目せ
て打を

きうら漕舟 煮うく舟之
き原之漕きす也云貝と

きよら 清あま
きひと うつらき

きぬたら 衣うつ也秋
きぬく 入りのあき

きしうて きえそひり
きえかき

きえかき
云々

Handwritten notes on a vertical strip of paper at the top left of the page.

Small handwritten notes on a vertical strip of paper at the top center of the page.

きくし里 新ぬ山うつせ

きうひしり 八月八月み

きりたち人 万百草乃りし

きりたち人 万百草乃りし

きりたち人 万百草乃りし

きのふよるをち 幸ふ也

あふたと云ん

きりひゆり 万百草乃りし

きりひゆり 万百草乃りし

きりひゆり 万百草乃りし

きりひゆり 万百草乃りし

木の枝 万百草乃りし

木の枝 万百草乃りし

ともあり

きんちり 万百草乃りし

きんちり 万百草乃りし

きんちり 万百草乃りし

きんちり 万百草乃りし

小まど小枝云

きぬらと里 正月乃衣と

きぬらと里 正月乃衣と

きぬらと里 正月乃衣と

きぬらと里 正月乃衣と

きぬらと里 正月乃衣と

きぬらと里 正月乃衣と

きの乃津く家 葛近あり
きく乃水 九月九日乃酒

の事乃何科

きく乃例 菊乃花ふかく

咲く乃例也

きく乃 木下二季あり

らん乃物之消交

きく乃と 薄く冬ありし

物也木毎あり

きく乃れ 依窓用と云

う路あり

養ふふ 祿示乃うこひ

物なり

きく乃れ 翁さうい日う也

きく乃ゆ 日敷と定い

の乃はるなり

きく乃ふ あうそふあり

きく乃ひ 是もあうそふ

不利

きく乃のり 名とたかく事也

不断番あり

きく乃うり 風の名なり

きく乃のる 背若衆を仕

於所之天知王

法在亦本丸殿

きく乃へ きく乃也もれ

清くとよ女う
うふあま

きくすの氷 みるを結ぐる

那り挿水

きくすの くらハ木たよ

ゆと云ああ也

至成海あふ 西と学ぐる

乃あけり

きかくふ きくふ那り

きんとひと 最と伝と也

きせりさ 菊入り霜とあ

てしとて八月より

里たをきす新とく

然不咲時きくふ似

せて菊月ふきすり

巴鏡あま

菊う於帝 背山右此人鏡

紅葉あも貴て

世成海之住吉

の市と云

きく乃え海松 きくハ草

あれ國歌の名

なり景溪松

きれるうし きぬ乃るう

一那り

きてとる 尊れうさみる

ゆふりく 乃乃名之大

白星と書也

ゆきあり 冬乃乾れり

ゆきけり 衣也七尺よ

くろく大くむ

とわくぬり

ゆめの麻 つま野乃り

ゆきり 弓の法なり

ゆきす人 祓示うあふ

崇利

ゆきろく 祓前よむ枕木

あり

ゆふけて 夕小る家

ゆきり 切加ふ也

ゆきり 助字なり

うよともり

ゆきり ぬく

ん忌字又よき

事用也

ゆしり 地字なり

ゆきり 乃けり 弓矢あり

ゆきり 髪雨らふ事

也又ゆり

ゆり 休の字

ゆきり 積あり

ゆふりく

乃乃名之大

白星と書也

ゆきあり

冬乃乾れり

ゆきけり

長也七尺よ

くろく大くむ

とわくぬり

ゆめり

つ宗野乃り

ゆきり

弓の法なり

ゆきす人

祢示う多ふ

半斤利

ゆきり

祢前よむ枕木

あり

ゆふけて

ゆきり

ゆきり

ゆきり

ゆきり

ゆきり

ゆきり

ゆきり

ゆきり

ゆきり

ゆきり

ゆきり

ゆきり

ゆきり

ゆきり

果たさる 玉めれ事し

十一面と書有る也

計常の可也祇承

乃時舞姫めれ上よ

かろる有る

ゆふしと 玉め也しとハ

織本後之七又

三也書也

ゆふしと 宛あも乃夕小

之海なると云

ゆくと利あく ゆくとく電

有き也かあは

ゆくとく電 也又ゆくと里の

ゆくとく電 ともゆふ

ゆくとく電 出れ定也紅花

ゆくとく電 新所にてあり

と訂め初次

ゆくとく電 ぶらんとは

於電催之電也

絶と云も同也

ゆくとく電 葉なるんし

ゆくとく電 志

うるなり

ゆくとく電 叶と来と也

ゆくとく電 しの海さか寛

乃字有る

ゆくとく電 仙居

果たはら 玉めれ事し

十一面と書行を又

けり帯の可也祿未

乃時舞姫めれよ

かろるあま

ゆふしそ 玉め也しそハ

織本後之七又

三也書也

将ふんハ 苑あも乃夕小

之海さるると云

ゆく利あく ゆるく電

ゆき心 才き也ふあは

ゆき心 也又ゆくりの

ゆりしそ ともゆふ

ふれんそ也紅其

将くて 新所にてり

と訂り初次

ゆきもよひ ぶらんそと

於電催之電也

巻と云も同家

ゆきり 曇なるんし

ゆきく電志

うる那り

ゆくと電志 けりそ来と也

ゆきひらふ ひろきん寛

乃字行を

ゆき

ゆゑむらさき 油部あり

ゆきつぎ じん水入物

形り

持らんする ゆーハゆ

形あり

着乃たら 夢の海うーふ

くろろ

ゆゑたゆゑ 波よ持る建

た持るふせ又

たゆたと云ハ

形あり形り

虫け草 牛の草

虫けくひ 持ふハ乃目

ゆく玉結 余のふれ公

虫たぐ見 志てのくみ

ゆゑと云有

ゆろろ 持ふーて

ゆれすくし 稲田姫杖

持也油津丸指

と書

ゆゑけき ゆろろ小慶心

形り

持ふけ 夕け之又浦

乃車あり

ゆゑとけき 善可小形

ゆゑとけき 善可小形

底くいらす

十七

ゆきふりし(14)

ゆきむら 油部あり

ゆきつぎ じん水入物

形り

ゆきあんする ゆーいゆ

形あり

差乃たら 夢の海うーふ

くろろ

ゆきあたゆー 波よゆきま

たゆたふせ又

たゆたと云ハ

形あり形り

ゆきけ草 夕の草

ゆきくひ 形ふへ乃目

ゆき玉結 余のふれかへ

ゆきたぐ見 志てのくみ

ゆきやうみ見 くるやうみ見

ゆきと云者 ゆると云者

ゆきうろ ゆきーて

ゆきまぐし 稲田娘れ登

持也油津丸指

と書

ゆきけき ゆきー小慶心

形り

ゆきけ 夕けへ又浦

乃車あり

ゆきとろき 善可小形

雪とめくると 舞乃る也
のさくく月利

約合のさせ 苗不足乃時
寺此神あを

ゆくはる たるひみま
とすりゆり

夕の人象 卯乃事十
琴の志る也

雪れうへ 占と回みなり
卯乃苑く

雪刃菓 龜附志志んく

雪のいふ

教ある物之

乃琴回参あり

ゆゆきま づきい概

ゆゆし物 因人獄舎小有

方出る也

ゆくお ひまありあり

宵すいんやく

ゆまとい ぬるといふ

行てひまは 産生也

夢殿 聖徳太子禱定

雨之和列法際

寺にあり

雪扱ひ雪 落毛と清らむ

あつさどー 事し冬なり
あつさどー 爰れつけ
あつさどー 爰れつけ
あつさどー 爰れつけ

ゆりけり けり
ゆりけり けり
ゆりけり けり

在未來利

ゆりまじり 袖玉合るり

在未來利

あつさどー ねてけり也

ゆりりのぬを 本宮湯峯

在未來利

ゆりまじり 鶏利

め

めさー 女れりのけり

名之又海去り

原と入乱築之

めをまよ 緩乃又也故有

てまろき物

とりのあま

めそめ 雲のむらう

條うる也

めろひ めろる利

文殊様あま

めてたけま 見なま物

見なま物

めさまー 正さ海

みろるあり

ゆりけり けり
ゆりけり けり
ゆりけり けり

あなご 事 冬なり
あつさつ 愛れつけ
あうん ゆめまがる
のりせと去現

在未來生利

ゆきまきり 神玉合ふ
やま巴祝

吾をふかむ ねて持子也
ゆりのぬを 本宮湯峯

ゆふまきり 鶏有利

めさー 女れりのけの

めを名よ 名之又海去り
藤と入糸簾之
緩乃又也故有
てらくーきわ

めそめ 雲のむらう水
條うる也

めさひ ぬらる利

めさふ 文殊様あり

めてたけま 見なまむら

めあま 見ふまぐる事

めさまーふ 正さ海ーく
みぐるあり

Handwritten notes on a slip of paper at the top of the left page.

Handwritten notes on a slip of paper at the top of the right page.

めとそとめ そとめえ

めつゝの めつゝし交なり

めつ川 是もめつしき

也めつと云詞

多松浦海より

ちしまるへ

めつらひ 是とめつら

し義也ひハ

批人字なり

めつし交 西月有也

めつり 月鏡子めつり

えうひと云之類

詞之あひし

めち じふあつ流也

めち 忍ゆ家新集り

めち 目録と書

めち 忍海志と云

新也又策本外

とのめれと云

事ナ利

めとま一茶 是とと海と

る目覚持共

め親らて 女おやれと

とく母めあて

あり

ゆぐーく めたくーく

形あり又月小立

めかまきとと云くはゆ之

あり めをともかさぬ

あり

めてくつる 感しの人分

也又めてなふ

感懐と言ふ

めくりー 見合あり形あり

めをゆゆ かもくろ調也

又めをともかも

か調ともあり

めーうき 思人の事あり

百人

めゆゆんか 同友人と書

めそめ めゆゆのゆえ

同僚

絶利 形ありのゆえり

あり

めわこふち 拙い子道家

目をいふ形あり

め小見ねる 蚊のまゆ毛

小巢残くは

鳥あり

めやま記 たりやま記あり也

めつ男 業平あり

めをきりて 海小く海

め勿然 ころゆれり

めおらふ 思ならふ

めら種と 對面をきぬ

み

こやい 情と如り

片白塚字也

こやこき 加のあり

みきり きぬ之侍上長

と書けり

こや博へ 重也官字と

書けり

みむり 扨こふひ

形り法也

みやし 乃多也

あふとん

今道さえ 萱ゆへ

取さた

こそ 湯衣也

こか月 六月

こわくき 昔と云ふ

所あり

倭志し ありふの

白とり

みかせ 梟と云水

忍くめ馬

嘗けり

みさくめ

賞候なり

みそゑ

くろへ乃車

ありは候

みりぬ

祓乃祭なり

みえふ砕

酒ふえひて

祓子車とみえと云

又三ふたのふ思き

竹ふとも禰利

三の軒

奥也水虫と書

みかこさと書 みさこ書

なり

三ふこさと書 郭云也三月

みさくめ 色紙とり

みさくめ 嵐あり

みさくめ 菅利

みさくめ ちんちん

車

みさくめ 龍心也

みさくめ 髪あり

みさくめ 里てゆふ

みさくめ 人そ文の並衣

と善候也

みさくめ 清う地人へ

人有利

三乃口 舟三弓一あり

うる戸也物候

みあり

みだし海 津山より流出

小川あり

さりのよのちり 女の年

乃敷調進へ

女正そ川 伊勢の文河也

みはのぬひ 男細て二重

三三重子也三

重葺

みちやと よく見なく是す

家也忍生

みと 正の連なり

三き物 さくけ物有り

注網物と書

三つせの目 三途川也三

瀬川

みそけ 注衣のかこ也

みつゝ 我為ゝゝへん

片ゝた

さかえ 水れあは也

そひつ 注衣ひつあり

介原所々 満の志家し

あま水尾

みあまの衣 刃少礼あろと
也若うミき

みあうーみ 匠灯又電書
とりー火うて

鯨書致 仙原

学又と終り

みとりの神 六位乃紫采
行わ

みさか 物乃るんせさ
取と云い

みさか けく 気色地乃
乃んを以てはよき神
と云又悟を志家と

云あろをゆり

みさか 水神とうめ家
小老媪の飛こ
乞とり

みらうらうら 月の事也
月乃らつ取と
くく取と

とれまてひ 婦和合れり
神代よ天乃妻
浮橋乃平ゆえ

見とりこ 心み果んゆり
の子なり

みあまの衣 乃少礼ありと
也若くミキ

みあうーみ 乃折又也書
とりー火もて

みとりの神 六位乃紫采
なり

みさか 乃の乃んせさ
乃と云い

みさか 乃の乃んせさ
乃と云い

みさか 乃の乃んせさ
乃と云い

云ありをあり
乃の乃んせさ

乃の乃んせさ
乃と云い

乃の乃んせさ
乃と云い

乃の乃んせさ
乃と云い

乃の乃んせさ
乃と云い

乃の乃んせさ
乃と云い

乃の乃んせさ
乃と云い

三法はやく 三捺は捺乃
るりやくつえ
乃殿他と也

みとりの林 ぬき人のみ
こそさね 宿成りふ事
よや

法河たのみち 高人あると
云なり利縁あふ縁
とと云なり

みてくく ぬいりるり也
みらふい 乃乃ちくひえ
足法の道じ 三徑也門打廁
乃三形り

りりろく 乃とうこの次
形り

みくり 水菜あり
みくけ敷 紫米畑する
人とのみ也

みまよつま 三たんや候
也屋茶たんと
室あふ縁へ

忍るり 乃面 硯あり
え重の袴 中倍急あるん
くまの形あり

みらるり 湯桶の帷あり
室あり

介原の付

あめのの如く
新之又そむ火
乃く付の身之

みまけ満うて
吉野袴乃

人精進あり

まはの衣
琴袴酒乃衣之

みと一息
十小みちうる

世何十あへも

法賢の利

み足まい里
あし何らふ

事之何足洗

そりう路
ひそりか行里

三月小志うりよ
女ハ親

夫子乃三小た

うよあな利

みらしき
うらしむたわ

見えくわ
みりてたふし

思出と書

みもとまはり
明石中文十

二戈より善裳

乃るり有利

みくりあし
あふたこな

たわしお祈し

まゆわし
あうしき祈也

媚し養廉也同雅し毛時
和と信いしうら
仙原
あゆみの紙也

水と救く
そりかあす

介原付

あいのぬれ
影之又そと火
乃くけのり

みまけ満うて
吉野袴乃
人精進あり

まはのな
琴袴酒乃な
みと一息
十ふみちうも

也何十ふくも
法賢利

み足まい里
あし何らふ
事之法足洗

きりうろ
ひそくか行
三月小あさうよ
女ハ親

夫子乃三小
うよあな利

みらしき
うらしあな

見とくわ
みりてたさ
思出と書

みとまはり
明石中文十
二戈とて善裳

みまけりあ
あふたこな
たわしあ祈

まやひう
ぶらうき祈也

倉乃く紙
まゆこの紙也
水と救く
そくかあ

手紙
（返書）
（宛先）

みのうとと 板乃附他人

形形乃

みちらる人 母かき公也

海東人と書

まわり 文達乃母乃

事乃有

かのよ うふやの祝也

又七水と曰也

るしめ縄 依江達と書也

見乃れこたり あやまら

おこあうと

乃事乃有

こあ達 湯生と書法

世書之賀茂大

的祿法誕日之

さる月之

みささり原 名所よあ

其内裏仙洞以

下乃依垣之

みり 主上依腰之

ら取物有

みのち海衣 みのを衣と

云也葎代衣又

身と責て衣代

と色いふあり

忍うけ 水乃穀物

みこもり

水の鏡うらと

みくろれ

水よかくけ也

みか

水隠又刀之入

水替わ

海くへ後成院

みか

あり

みあま

ありま冬所也

みか

みかなること

みか

云ふ海也

みか

云ふ海也

みか

云ふ海也

みか

云ふ海也

みか

云ふ海也

みか

云ふ海也

みか

云ふ海也

みか

云ふ海也

ひあり

三幅の志願しととみ

来き世相立と

五松の事也

みか

天子翁法乃目

とゆふ利

みらうひ

見遠へ又云乃

乃ちまも也

みか

法供人あり

みか

四方の上三物

みか

法く為極ありて

みか

乃系ありてあえ

みか

ひと法むる也

えねめり合 伊勢造え北

一年めの儀へ

みあふ取 忍あふ世なり

えりりーこ 大林文よ

てーはととりて

うーあふ日也三角

拍也ーはの素也

水ーうけて長へ

えりめし区淳も者

也水のーをた又

こつかりーを世云

みつりーも 右回家へ

直ハかあふ立

さき付思事

うかふさる世

みえふこね 水とるーた

取打あわきさ

るー回家

三乃つさ 三位し

三此をふさ 三途あり

戸あふ小封付

事也

えりりさ 琴と引るり

りふり科

みとるりの祓 きの中に

る祓打あ水祓

み川水の内裏より成

流石川なる

為乃不こら 道祖神あり

忍とり乃洞 王丸伝とる

里水く露のか

水乃苑 蓮花より之

みと里の苑 桃の吳君利

多の衣 氷れり之

乃きぬとも云

見ぬくさ 之の吳名也

みちるき 日分三子種之

みそり 晦日之妙目也

みさしき 王の治るり雨

みさふ 多うのうを

みさの翁 三人の母さか

みなせ川 天川之水世川

みさえた 海さこ也多沙

乃志建海 老馬乃急

那

三十三

三十三

三十三

三十三

三十三

みもた たく乃りかへ
みをき玉 玉祓を扱也清

見とふ 新玉あり
帝玉小を扱也

みか達さか 水子別名也
ゆふ利

み流さき 久し交ん玉垣
乃りと云久とい

みんたぬ 祓乃子
を言の字とらつり

みとしまの三あり
乃ららん乃字よ海也

乃初より 道田人次也

水け菜 け子成りふ也

乃り草 卯苑利
みとら 祓田へ川戸代

見くうれ山 吉野打り
見りり山 常陸筑波山

をゆふ

みくさ祭 さつさまうし
みさの苑 同三校乃むと

折酒持とりさ
於へ三校苑と

雲打り

みけ 祓供あさり也
祓食也

三のちり軍を兵車也

三子里と書

忍ぬふの山志てれ山へ

みいふはく田付く家時

竹まてふえて

所々る竹を

ふかち海軍の川まで果

竹利

都乃垣りぬ河原院へ

こやこま松竹を

みわひまや竹そさうりなる

りておし也水

疎ふた云

三のちり軍依犧林農官

帝あり

みあとの軍天子乃侍調

竹利

みこしる乞も勅授あり

あ乃けり水に紋有る也

水代はさき同水階へ

三のちりめ元月有る

金代あはひ賀茂乃系比

都の家代はた

まよ葵と懸之

見きれたる三権神室也

みころのままま乃りて

みくささぎ 湯門事平を来
みくささぎ 藤原盛子也
みくささぎ 藤原盛子也

耳かき 耳かき
耳かき 耳かき
耳かき 耳かき

くわのさうひ 欲死色類
世に依りて
くわのさうひ 欲死色類

くわのさうひ 欲死色類
世に依りて
くわのさうひ 欲死色類

及の事 三十一
及の事 三十一
及の事 三十一

のまとお教
のまとお教
のまとお教

三乃灯 日月星之又云
稲荷山に三乃玉を
うつとけりり玉也

見備 録乃玉と孫小
やおま一也云

三乃乃廣家 玉垣庭之
乃口の乃 越前乃乃亦

みさか 花近右を中将
を清總助と云
又難面也

みよきぞ 湯門事平を来
みくろのく 藤と織り也
みよき 湯小ぬふと

耳かき ね 耳はよく
打き人の

みよのさうひ 欲ぬ色類
世に依りて

みよこきり 殿上人の著
てまうりあ

みよ乃刀 圃のふせ忍字
と愛し具之圃

みよ乃灯 日月星之又云
稲荷山よ三礼玉を

みよ乃 とうとけり 五芒
ととけり 小形

見ゆ 録乃志と孫小
やおま 一也云

みよ乃廣家 玉垣庭之
乃口のけ 越前乃名所

みよ乃 花近右を中将
を清 總助と云

みよ乃 清くむんあ
又難 西ん也

みよ乃 又難 西ん也

みよ乃 又難 西ん也

Handwritten notes on a small slip of paper at the top of the page.

こつえ括 老て赤途三折

口へう一書也

みどり 田丸水と書残

みそき 袂折を能本に

し 法衣本と書也

志ひし 女乃紫束の上

志也の 小若まりし

志けち 物扱ふとふを

あしふを又

志こめ ありきなり

志をあれと 志り建たへ

志めあく 能しうる事也

志めさし 志回寄

志をれ波 志希く五波也

志は明香 志け多亭香し

志乃山 少乃山行を

志の川やこ 北日以後の

やみ有利

志れ可身 志こ徳出ぬ也

志るく帯 志るく徳附し腰

志る物あり

志る物あり

志る物あり

志る物あり

志る物あり

志る物あり

志のた 志ハ思ハ艱之
志き妙乃指 乃指之妙
志うた 仁得也
志まふ調也又
志んみんら
志事あり

霜あり なく秋霜と云

志りりり 乃の志家へ世
志り里 志の葉ハ山 紅葉をぬ山

志めこやて 志のれ木乃
志の葉の神 小枝形り

志うきく 乃衣ともあり
志のけき 志のうな利

志うとく 志う孫きん
志もむ 志うく休之

志はぬ 志はるなる
志を素

志のえ景 志のえ
白妙の帯 枕詞也白ハ衣
乃本又なる

志ぬひ 志よむ
志うとり 志乃名也
志り一里 志と知り一後

いんげん

志のえた 乞ハ思よ艶之
志き妙乃指 乃托之姿妙

あまふ調也又

うんあんとん

事あり

霜ありさ たく秋霜と云

ふりりはる しのきめふか

志や里 為乃志家へ世

志の葉乃山 紅葉をぬ山

志めこやて 志のれ木乃

小枝形り

志の葉の袖 いろれろき

いんげん

神へ志い志ん

乃衣ともあり

志のけき 志のうな利

志うとく 志う孫きん

志をむむ 志ろくく体へ

志のぬふ 志のろく

志のえ景 志のく

白妙の帯 枕詞也白ハ衣

乃本又なる

志のぬひ 志よむ

志うとり 志乃名也

志のり 志のち

成定家と分明
ありと有り
志はく 石ありと波あり

志はく

月日ありと
志はく 月日ありと
志はく 月日ありと

志はく 月日ありと
志はく 月日ありと

志はく 月日ありと
志はく 月日ありと

志はく 月日ありと
志はく 月日ありと

志はく 月日ありと
志はく 月日ありと

志はく 月日ありと
志はく 月日ありと

志はく 月日ありと
志はく 月日ありと

志はく 月日ありと
志はく 月日ありと

志はく 月日ありと
志はく 月日ありと

志はく 月日ありと
志はく 月日ありと

志はく 月日ありと
志はく 月日ありと

三十一

成定家と分明
可成と可成
志付く
石ありと波あり

まわるとまわく
形と云志付く
月日ありとあり

ふらふらとささ
と車に振る書
付事ありとあり

鴨乃羽とさ
鴨ハ志付く
羽をかく地へ
敷書ありとあり

志のあり
摺
陸奥信夫
敷は髪と靴様
みすす物形り

寺法の寺
清水寺也
志里の
この持りしと
云ふ語あり

志の清り
舞乃髪束
也袴利
志の月
志の心とあり

志の波
ぬと人を云白
浪と書
志のふ立て
志のふ切ふ

残乃をなまき
ありとあり
あり

於云又るそ
とひ小物也

志の丸向さ
かしく云

志くく
志けき事

字形

うきぬまていさうね

あくさう

下巻色乃志

時多とく

月利

志たまひめ
白浪

娘と書

志らりめ
白浪

富りの影
月の影

志え舟
采

志さ投
下投

志さよきて
白帯

志さ雲
白小雲

志井志
志

志川志
志馬志

志下志
志

志り志
志

志志志
志

志志志
志

志志志
志

志志志
志

忘むり
忘めゆ

里小一此小也
ん成とむり
物来忘と係り
也能司言小海
世を忘めと云

あきみ

を浪あとい

忘り次

うすり也麻を
りたせくと云

忘れや

巴鏡あり
忘れ一此事
芦海方とあり
しきうる家也

藤屋

忘れ
忘れ
又久一義事

あを用打

忘もや

新舎也下屋

忘れ身

ふまのるり也

忘れ

忘れ

忘れ

忘れ

忘れ

忘れ

物といえぬ

忘れ

交長附たきぬ

哲言也仙原

里小一此ふ也

忘むら
ん城をむらこ

忘めゆふ
物来ふこゆり

也能司言小海

世を忘めと云

忘らみ
を浪あとり

のし詞へ

忘の原う
さすり也麻を

のたせしと云

巴鏡あま

忘家へ
忘家一此事へ

芦為方とみへ

しきへる家也

藤屋

忘録
秋夜物有刺菌

忘らう
かた君のりへ

又久し義事

あも用打白

忘もや
新舎也下屋

忘乃具食
ふまのるり也

忘りやう
こちへうしるこ

忘るの
とたを

忘をあひし
下家司

忘そあて
忘りやう也

忘くゆ
物といえぬこ

忘りさ録
交長附たきぬ

忘りさ録

乃白髪を如り

とげうるを

ぬまをたす

乾方の風

紙食虫を来

思源より海也

片よきん引え

星の海也

はなすひ人

木の葉らりか

まお拂ん又老老

乃志りよるては是

のあるうり也

湖海を

志んらん圃

氷うみの地

也又ふか

た思山小よめ

里んあたる

たく裳のみ

志うひら

志うる也

さそあ

右れんや

五

乃白髪を那り
とけくろあま

ぬま志平たろ

まとの風 乾方の風へ

志こ 紙倉虫を来

志う孫き 思源より海也

志川きり 片よきん引え

口まの海也

志は少ひ人 機乃日志人

志木 木の葉らりか

志お拂ん 又老老

乃志よりきては是

のあうりま也

志不羅ぬ満 湖海を

志うき 志んらん圃之

志てろろ 水うこの池若

也又ふかろ如

た思山小よめ

里んあらん丸

志うろろ たく裳のみ也

志くろろ 志うひらろ

志うろ也

志なとて さそかとて乃

志くろろ かく海あを

志ことみ 舌れんやま

ふらふら 也又字ときせ
泉のあひ 塩乃みちあふ

身也志かあひ
ともはり

ちくちく ちくみくす神

片利

あろ乃え 佐右のりり
志きなり

形り

あよ物思 志けく物思也
志のよき

あく吹也冬

ちゆゆ 志くきれ弓

富所とり 水乃くも也又

糖とも云

志てら 志けくうつし

ちとちて 弗又味とあま

ちちり

志のちも 志也新也云

志もれま 老乃まゆへ

志あひ草 蕨のりく麻等

草と書あま

志けぬん ぬふの志けき

也海く志け

ぬきとあり

ちくちあり 二とあり

志そまむ 久任と云ふへ
志乃海え 少りやうへん

とまじ有る也

志まのうち かしんとて

黒漆酒也

志りなう〜 そのま〜

志めが 比野行利

志月く〜 ぬれ君也八

雲〜あり

志まの孫 露の名し

志と水れ癒 水中也下夜

志まの孫 地有皇

志海乃々〜 志まのまは

志〜の〜 古御よあり

志りまのぬ 亦あ〜小宗

小よく成る

あ〜

麻乃々〜み 森の中小入

程よむ〜小

ま〜る也

志〜人 新羅人あり

志たえ乃思髪 龍か〜と

〜まてぬる〜

志て〜る姫 防めり〜みこ

乃ひめ也

志の〜え茶 ちい〜え茶也

志乃野 根五神ノ白野

志かさわ 塩乃指あふ浪

志ささりひなり 也ささりひなり

志ひ乃山満 生死乃道也

志此つま 萩の身ノ苑の

志海ひこ 所まとも云

志乃さか 菓子此必那り

志乃乃本よへ 志乃乃本よへ

造らる毎のさ 造らる毎のさ

不あり

志うれ夢合 津圃つけ野

志乃そのあ 麻野蘭之

志のうゑ 志乃志んく

志さひ山 也考るなり

志和下持山也 大和下持山也

志もろ山 去依志川花山

志ろのえ 近江大津乃え

あり

志くく川 梅中存也

志路くくさ 山と也又あ

やあとも云く

志はぬ 志ぬなり

志く車 柴とつきて山

れ高きよる里落

忘き花浦

正をいふあり
任志乃内よ有

忘久く

又亦た有
思志きりり

忘るる哀祿

天照丈祿の
湯在亦好り

塩川く世

莫乃りり

忘れ小吹風

志けく吹簫

忘るる心

乃んなく柱物
亦あう心

忘るぬひ

情くしの枕詞
也不知り火有

忘

忘忍付て候

忘

忘と知ると云古

忘らら錦

了り好り
赤地山んちあ

忘

志けきとりのあ

忘

あもて也
背女持乃象よ

忘乃こみ

みよ書なめりへ

忘ねくう

麻の肩乃骨を
振て古え

忘くちあ

忘きりよあ

忘

あ

繁也 忘路 吾
のくもり
けまこし 八雲

忘き花浦

正をりあり
任吉乃内子有

忘きく

又亦有
思忘きりり

忘きく

天照丈祿の

塩川く

湯在亦好り
莫乃りり

忘き小吹風

志けく吹簫

忘きく

乃んなり柱物

忘きく

亦あり

忘きぬい

情くしの枕詞

忘きく

也不知り火

忘き

忍侍て

忘き

志と知り

忘き

了り

忘き

赤地らんち

忘き

とあま

忘き

志けり

忘き

あとも也

忘き

昔女持乃象

忘き

みと書

忘き

麻の肩乃骨を

忘き

捺て

忘き

忘き

忘き

あま

志願志乃煙 快戸と漢路

通舟と火

と立也それと

見之趣不

志乃稽衣も野をらとや

て芝茶織

を云旅人那

乃者と云

かをり山小

よめ承るや

志乃とかき 志乃み何と

社とつけい

地社と云心

志田丸福 十六赤一候

候と守

打利

志くめお 志さり小也風

そ志くめお

あり又吹

志と約 思人を待り也

急

志のらけ 衛門兵隊

志の傍 又あり

志のらけ 日

志のらけ せり也

志のらけ 徳冠

ひさし

ひさしれり

形

火

火熾乃名あり

えじ

わくひえむ

多

是と云ふ

ひ

満

ひ

一向小と云ふ

ひ

わ

ひ

他

ひ

男

ひ

茂松乃車也

ひ

死

ひ

山乃めり

ひ

あさ月の出時

ひ

ふあ之成と云

ひ

いあり也田舎

ひ

神

ひ

云と云也

ひ

正られて形

ひ

唐乃市門之

ひ

車名也

ひ

書

ひ

車

ひ

車

ひ

車

人小舟を舟車と云
云方より皇息口これ
て舟あり人終と名
付り利

ひめうや そくし出茶へ

ひめうの 秋さびき日也

ひめかみ ちりり乃る人こ

ひむろ 六月一日氷と

帝尊也 討むぬ
と心とあり

ひめかみと南あそり 龍右大
ひめかみと南あそり 龍右大
ひめかみと南あそり 龍右大
ひめかみと南あそり 龍右大

ひめかの長流 浅ましく在

ひめかの長流 公也 浮舟長流

ひめかの長流 也 親よ 羽生そ

ひめかの長流 えぬ 車と云

ひめかの長流 いなりめき

ひめかの長流 多うなる

ひめかの長流 久くさ此 祿

ひめかの長流 也 一云 主祿へ

ひめかの長流 ひこころと

ひめかの長流 日か

ひめかの長流 火熾るぬれ河

ひめかの長流 時乃きり小庭

一向や 浮舟

人小舟を舟車と云
云方より里忌口これ
て舟車よ人舟と名
付たり

ひめうや ともひ出茶へ

ひめうの 秋さむき日也

ひめかみ ちかひ乃事人こ

ひめろ 六月一月氷と

帝座也 計心ぬ
と心とあり

ひめあともあり
ひめあともあり

ひめあともあり

こゝろあり

ひめの長徳 浅ましく在

公也 浮舟長徳

ひめろあともあり

也 一云主神へ

ひめあともあり

多ありあり

ひとねの神 ころもこれ神

也 一云主神へ

ひめあともあり

日か

ひめあともあり

火燧屋あり
時乃事し小庭

ひめあともあり

みねのいそぎ

おたけ

ひらく ひたたくハ放將

低行 の神也とこ共あは

心し匠 ひろきとこひとを

乃て海あり

ひら海 うねりきとり

しきとあり

ひらき まをかく神

とゆうた

うーあり

ひら 鳩をいふ也

大ぬとよめ

ひさめ うりい

うつら あま

いふ ちり素

ひら 蛭見と書祓乃

若利

ひす り也めハ

羽字あり

ひ 世賢王の代ん

ひ まのれると志

む ひる也

ひ な乃別 田舎の別々南

浦 小島子とそた

ひさめ
ひさめ
ひさめ

みねがいのま

利

ひさめ 放将

の神也と世あり

ひさめとこひさめ

乃て後あり

ひさめ

き

ひさめ

と

ひさめ

大

ひさめ

ひさめ

ひさめ

ひさめ

ひさめ

ひさめ

ひさめ

ひさめ

ひさめ

ひさめ

ひさめ

ひさめ

満

てく仲へつきて

てふからやり

ひろりこ わりこ也

子と書ふ

ひのまうひ

利

ひのまうひ

利

ひのまうひ

利

ひのまうひ

利

ひのまうひ

利

ひのまうひ

利

ひのまうひ

利

ひのまうひ

利

ひのまうひ

利

ひのまうひ

利

ひのまうひ

利

ひのまうひ

利

ひのまうひ

利

ひらねり 加路く

居る也又ひら

を於心形又ひ

らくる衣形め

らあといふ

ひとそう 一孫と書一族

のあはれ也

人より 差別と書終し

ひより あはれ也

氷河と書

ひらねり中 中の西と成云

川分んし 琵琶と功者云

ひらねり ひ乃石地と水

ひらねり 小入と書

ひらねり 雲乃うく

ひらねり 及乃石地也

ひらねり 茶漆の色思

みらねり

ひらねり 一月乃車云

人たれめ 終目と書形

ひらねり 元乃のめあ

同んあ

ひらねり乃目 又月又目云

左を右近り

五十二

ひつらが 田苅辺の二番
むへんを

ひまの馬 祇化海あり

乃らり

ひまの馬 四月一日よ

里懸を系乃す

たきけり

ひりろき 急病感念その

梅物をい

本也又い

ひい者乃水

からか

池也

ひかしの鏡 伊勢の祇と

鏡はのれ小き

伊勢の祇

於川乃湊

竹あり

ひさく物 物あり

於事也

ひさく物 物あり

やま

ひら

目の

あり

ひまの馬 伊勢の祇

久のこ乃山 須弥山可利
一和めりの神 三寸神也

乃る 乃る 乃る

火と者ちころる世 佛入城
の軍一也

のこら帯 麻袴神子遠
初て懸向ひし

ひいば祭 氷れぬぬハ
年よて初事な

氷乃初新とて
大法會有ハ

ひけのや 乃る
乃る

ひめささ ひとりの世也
乃る乃る乃る

一月の宿 け世系なり
四月七日ある

ひの髪うく ひさびさなり
乃る乃る乃る

乃る乃る乃る
乃る乃る乃る

ひきまを 乃る乃る乃る
乃る乃る乃る

ひとり乃手向 乃る乃る乃る
乃る乃る乃る

乃る乃る乃る
乃る乃る乃る

ひあふ あふくるり也

ひあふ 圃毎乃扱あり

行也

ひあふ 海京入錦を著

てふ取之朱素

長の取也

ひあふ 粒物よりあり

小女乃之てあ

そふ人形之

ひあふ 苑散里也

も

ひあふ 會物外あり

よるき車に

しあふ ふりふり又月

くけ 系毛八月夕昔

と云 奥とくさりて

ん うーは縁人

ひあふ 采あや一扱乃

車あり

ひあふ とほ正の也

車乃前小ひさ

ひあふ しれと云也

ひあふ あふやうあふ

ひあふ 度葉れくす

ひあふ みりくま

ひよ酒 六月小一

酒を造りて

すゝる

ひ原のかうー 昔持とく

うーて舞う

車あり

ひり乃法 光ハ益れり

うけと夜に光

法不素

ひめ乃祿 天照大神の法

事也

ひらえきれ車 初ん路う

此原を海祿

ひらひらへ國乃

鬼王の名也物也

齋け字と書見也

れは書て門小立

鵲の名よへ 郭云乃

て小葉の董より

とさめれ地とや

也と付人替

とすの葉くふ へうかき

志願る之秋也

此原そぬ親 祖父をる

とそめり親と

ひ原は利

のあは くらひのあ

もくろ けのりあり

もくろく もくよみ小成

もくろく 事不判

のくき 禁中と云百官

のあは 乃座と發取

のあは 病と云押

のあは せはき也乃色

のあは せがもせ始

のあは せもくろ木

のあは 十又木也乃月

のあは と言十又月の

のあは 月と云らと云

のあは 事門さくり之

のあは 本あはれ萩

のあは 成り也又阿

のあは 乃梅共あり

のあは 管法のみ物

のあは なる

のあは なる

のあは なる

のあは なる

のあは なる

のあは なる

のあは なる

のあは なる

のあは なる

のあは なる

のあは なる

のあは なる

のあは なる

のあは なる

のあは なる

のあは なる

舟の久也舟者
舟中人舟人万景よ
舟者

舟者不舟者
舟者人舟者

舟者舟者
舟者舟者

舟者舟者
舟者舟者

舟者舟者
舟者舟者

舟者舟者

石あり

舟者舟者
舟者舟者

舟者舟者
舟者舟者

舟者舟者
舟者舟者

舟者舟者
舟者舟者

舟者舟者
舟者舟者

舟者舟者
舟者舟者

舟者舟者
舟者舟者

舟者舟者
舟者舟者

舟者舟者
舟者舟者

舟者舟者
舟者舟者

舟者舟者
舟者舟者

舟者舟者
舟者舟者

とくひめ 七夕也百子非
と書又とくひめ池
是ハ天川の若之又
りくこ池でんちく
乃圃の若あり

りか 藤よろけけけ
て垣にあり也

の也 死人を承目本
祀りしあり

とすえた 指あを未投
藤跡のけり辨

乃事し

りめけり
猿が利
唐乃天白山小

りのだま 唐乃天白山小
馬渡り也

ゆい 窓又條孔物之
又女と色云

とくくさあ 京あや唐急
久こしきて中

たこくちちちち
地つくりまじり
小あねを云也

と心白玉の聲 漏刻乃水
八巻那り

のち立為 我あれしとこ也

ちんちんちんちん

まことひめ 七夕也百子作

と書又まことひめの池

是ハ天川の名也又

ゆきこ池でんちんちん

乃圃の者あり

まらくまけ めちれくた

まらけ

りか 藤よりみけ

て垣たあく也

り也 死人を承月本

祀りしあり

とすえた 指あを未扱

藤野のゆり 辨しうふあ

乃事し

万葉の りめり

まれ見多 猿利

りのたま 唐乃天白山小

五遊

ゆい 窓又藤花物之

又女と云云

まことくさあ 葉あや唐急

久しうまて中

まは白玉の殻 漏刻乃水

八巻あり

ゆきまを 我あはまこと也

りよ月々 也よぬ字に露

りよ月々よ花
もよいづく日家

之景の花 之よ垣志と花

歌まくらも也

もよひ乃 いろり新すこ

あささよよ也

阿さ飯行と仕

るり不事

り落ばのくく 藍乃平へ

ゆのあり亦 真五よ杉下

くなくひるる

亦不也

りくろ 敷のゆかき

妻乃百馬り

わくす

むすき む松竹

もそあやみ菜 りてあろ

ひあろ新行

りよひ系 桜竹

かよひひ系 ちまふ水

みらの里 泊瀬也

紅葉の戸怪 錦乃戸七

夕小よせて後

るく世川 百瀬酒と書也

せふ 妻なり

せはさ 下れとこなり

せまき 女と云也兄

せはさ 才何と云

せんり ちやうやう

せと 町さあり

せと 海川合所也

せと 津戸迫門

せらぬ 大切なり

せらぬ 奴なり

せんた 世えかきと

せんた 世えかきと

せんた 碁のなり

せんた 世みま

せんた 海り

せんた 蟬織延也

せんた 心月の言分し

せんた せめてさう

せんた ころり

せんた 客と送足よ

せんた 方のせきと

せんた 天川岩戸也

せんた おた乃園也

せんた せきと入りあり

せんた 男と云

せんが
せりほむ
せこ縄
人ふく
遠はる
持し縄を引て
麻と道也

せは物
せくらき
ちりさふ
そ流く流水也

す
あひまのる

すさむり
すのんむ
めて
た格ふ

涼し
涼玉
涼王
涼と

不許容生と心とまは輔沙
八

まくせ
まやく
事也
まくせとあり

すあ
ま
麻の唱を云秋
ま

ま
ま
雄麻と云ある
ま

ま
ま
ま
ま

ま
ま
ま
ま

ま
ま
ま
ま

ま
ま
ま
ま

Handwritten vertical text on a small slip of paper at the top center of the page.

せんろふ
せりほむ
せこ縄

人ふくろふ家也
遠くると云こ
持し縄を引て

せは物
せくらき

麻と道也
ちりさふ奥こ
そ流く流水也

せたく
すさむり
すのんむ

あつまるなる
めてしそぬ也
た橋りこじ

涼しむ玉

涼王と涼と
ま縁く玉を利

せくせ

ふやくちうり

すあけ

麻の唱を云秋

せりあて

過うたふ也

すれ縁多

雑あり

せくか

唯麻と云ある

せけなう

ふかをたきこ

せりく

いそくふ也と

せりく

ふかふと云

せりく

心を互と云や

せりく

り同調ある

せりく

せりくやうい

さくよく ちよ同るや也
すくゆの 舟小舟をゆく
まくら 舟車なる
まくら 人とりとる心
まくら あり
まくら 心とくまき
まくら あり
まくら 便なり
まくら 思の介也
まくら ら流と云る
まくら 流同
まくら 浦人のまき也
まくら 流の流る

まくら すすりて
まくら 下流儿下
まくら 溜の前なり
まくら ぬきなり
まくら ぬんのり也
まくら 和琴とさなり
まくら あり

まくら すすりて
まくら 少とくまき
まくら 草根也
まくら 菅根を云なり
まくら 越る乃
まくら しの肉小入

その松山

ぬれをいふ十

山と波越町

すきくすま

穀家くく

とんたえめらん

色め

ぬれ所より

ぬあり

すまひ乃あるし

すまひ

のそてあり也

すまの山

ふゆにせん

すま乃

格示れり網涼

乃神よありす

すまひのふ

日本乃す世

すまひく

透るく世打

ちんくくと云

あゝ流をあり

すまひ終

たし終へ又可

加れと云ふ

とけれ庭る

養乃美者

とけれ

星神なり

すまめす

不意あり

雲深れ宅

夕のうきん也

とんたえめ

くれかぬあり

すまめす

夕也雀色

すまめ

蜂あり

すまめ

孫んありあり

正久ぬく 志げさるり也
正こ 下寸の事乎

正母 侍流乃事也

正くたき 正けさるると云

正のみこ 正るの者あは

正乃むし 正ぬき入

正け苑 夕うかた

正アヒ菜 万葉此名之帝
王菜と書

正りの村多 比く鳥と云
満ちよ元月利

正りめ乃と 下城の乳

母しとりいふ

物とりふ

正くとりて 山菅乃長
とてするり

ある有利

正乃すまの 伊子有未考

近我系才印之終

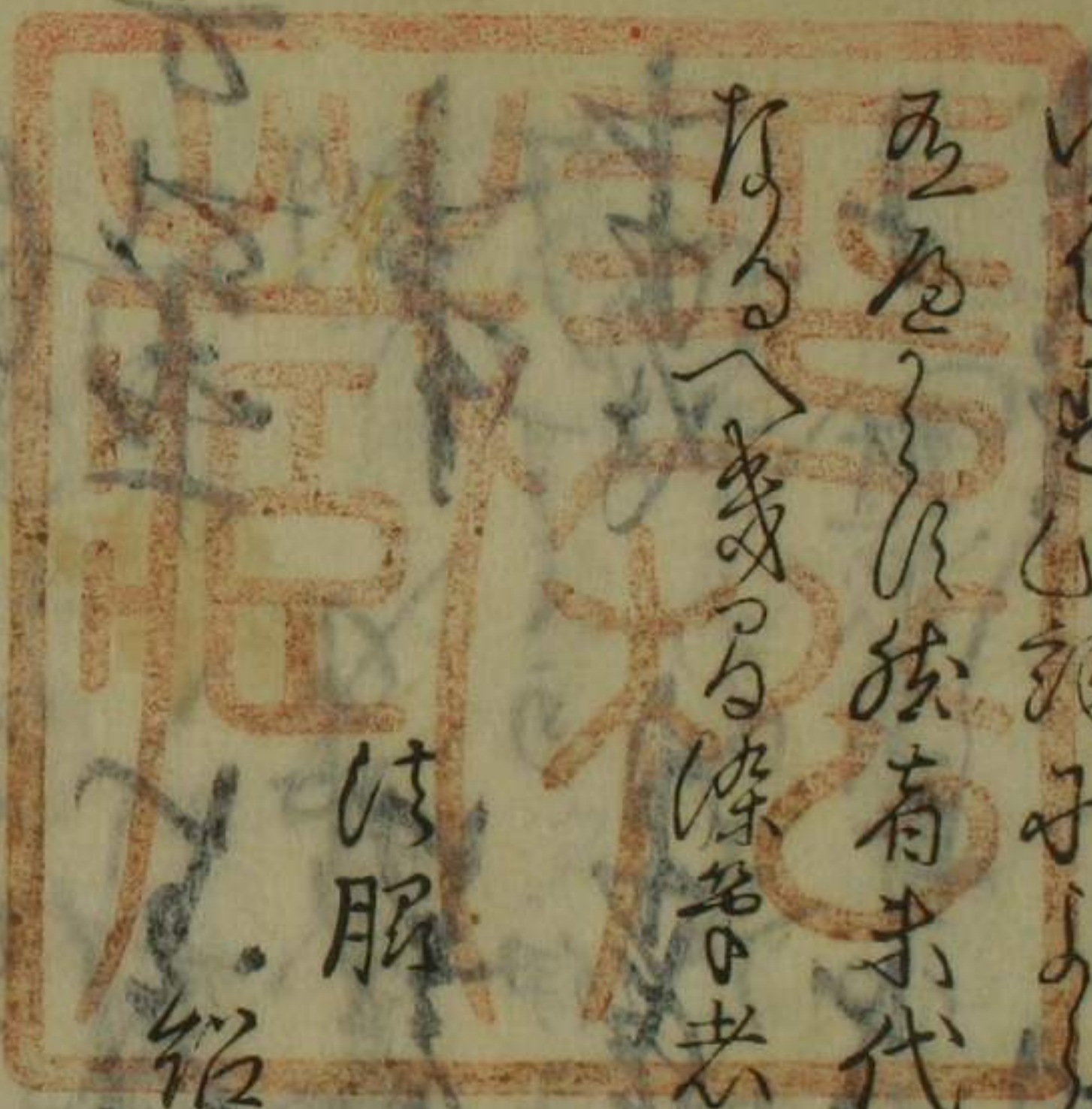
正

正く浪やよ得てらる満丸也

正りりの正まひせしり

ある人び一冊と社あり

於予先と云ふるふそのか
誰人の云ふことと云ふ事
志す福とも和言備りし心
と云ふゆへん人ハ功不功と
いふことハ詞ふふ事ハ
あることハ法有未代乃重宝
なることハ條等老也



法服

紹巴在判

慶長二年三月上旬

Handwritten notes in cursive script, partially obscured by the seal.

